

Nordic Market Biweekly Report

北欧市場ニュース～北欧投資の魅力と最新情報を隔週でお届けします

情報提供資料

2014年12月22日

★為替・金利の動向

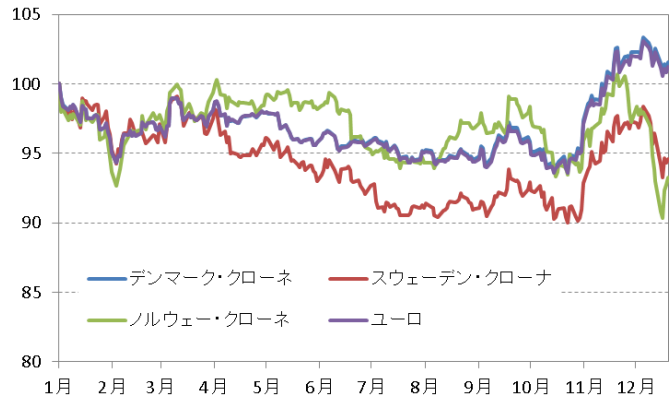
対円レート推移
(2014年12月4日～2014年12月18日)

※単位は円

	12月4日	12月11日	騰落率	12月18日	騰落率
ノルウェー・クローネ	16.97	16.28	-4.1%	16.08	-1.2%
スウェーデン・クローナ	16.01	15.78	-1.4%	15.44	-2.2%
デンマーク・クローネ	19.93	19.80	-0.6%	19.62	-0.9%
ユーロ(フィンランド)	148.27	147.25	-0.7%	146.00	-0.8%

北欧4カ国通貨は下落しました。ノルウェー中央銀行は11日、市場の意表を突く形で、政策金利を1.5%から1.25%に引き下げました。原油安によるノルウェー経済の成長見通しの悪化が背景にあり、これを受け、ノルウェー・クローネは急落しました。また、スウェーデン国立銀行は16日、政策金利をゼロ%に据え置くことを発表し、ゼロ金利長期化の見通しが強まったことで、スウェーデン・クローナも対円で下落しました。

対円レート推移
(2014年1月1日～2014年12月18日)
※2013年末を100として指数化



出所:ブルームバーグデータをもとに当社作成

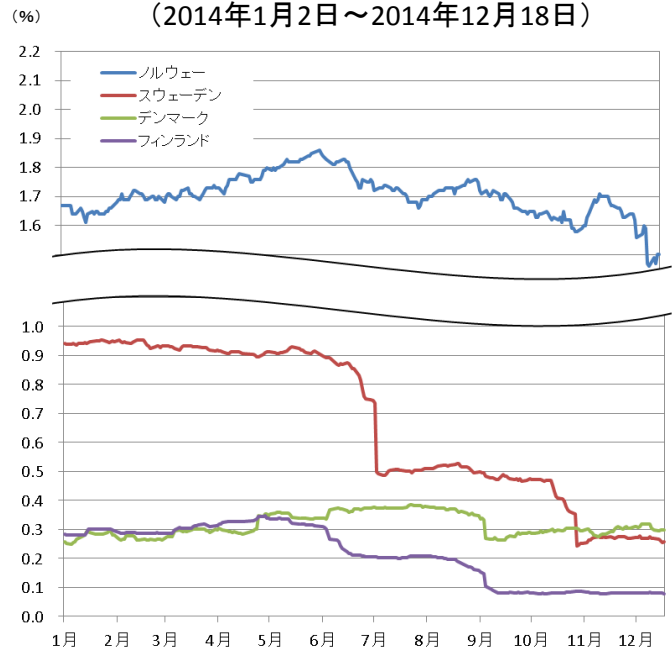
銀行間取引金利3カ月物推移
(2014年12月4日～2014年12月18日)

※単位は%

	12月4日	12月11日	変動幅	12月18日	変動幅
ノルウェー	1.620	1.470	-0.150	1.500	0.030
スウェーデン	0.279	0.270	-0.009	0.258	-0.012
デンマーク	0.310	0.305	-0.005	0.298	-0.007
ユーロ圏(フィンランド)	0.082	0.082	0.000	0.079	-0.003

北欧4カ国の銀行間取引金利は下落しました。ノルウェー中央銀行のオルセン総裁は上述の政策金利の引き下げと景気見通しに加え、今後の追加利下げの可能性についても言及し、市場では金利先安観が燻っています。また、ゼロ金利政策の継続を発表したスウェーデン、原油安による歳入の減少が警戒される原油輸出国デンマークに加え、ユーロ圏では原油安を背景に、インフレ率が低位に推移するとの見方が強まったことが各市場での金利低下圧力となりました。

銀行間取引金利3カ月物推移
(2014年1月2日～2014年12月18日)



出所:ブルームバーグデータをもとに当社作成

【本資料に関するご留意事項】

本資料は、BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社(当社)が、北欧の資本市場と政治、経済等に関する情報を提供することを目的として作成したものです。本資料における統計等は、当社が信頼できるとされる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料中の数値、図表、見解や予測などは本資料作成時点でのものであり、予告なく変更する場合があります。

☆北欧ニュース

＜デンマーク政府、2014年の経済成長見通しを下方修正＞

デンマーク政府は従前1.4%としていたデンマークの2014年経済成長予測を、0.75%まで下方修正しました。同様に2015年の経済成長予測も2.0%から1.5%に下方修正されています。同国は2007年まで膨張を続けた住宅バブルの後遺症に長年苦しめられ、この後遺症は国内消費の重しとなっています。政府は今回、「住宅バブルに起因する困難な局面を克服しつつある」との見解を示しているものの、欧州経済の減速に加え、原油安による歳入の減少も考慮すべき事態となったことも予測修正の背景となりました。

＜フィンランド議会、ロシアとの合弁企業による原発建設を承認＞

フィンランドとロシアの合弁企業である、フェノボイマ社によるフィンランド北部での原子力発電所の建設がフィンランド議会で承認されました。この建設計画には東芝や仏アレバも協議に参加していましたが、2013年中に協議を打ち切っていました。フェノボイマ社はロスアトム（ロシア国営原子力企業）の出資を受けていることから、ロシアに対して経済制裁中の他の欧州諸国からの反発も予想される他、「（ウクライナ問題によって、）ロシアは孤立しているわけではない。」との誤ったメッセージをフィンランドからロシアに送ることにのみならずかねないと危惧する声も国内では浮上しています。

＜スウェーデン穏健党、新党首を任命＞

スウェーデン最大野党の穏健党は、9月の総選挙敗北の責任を取って辞任したフレドリック・ラインフェルト氏に代わる新党首として、アンナ・キンベリ＝バトラ氏を任命しました。キンベリ＝バトラ氏にとっては、9月の選挙で勝利した中道左派政権が2015年の国家予算編成で失敗し、政治的混迷を深める中での難しい局面での登板となりましたが、有権者の間では同党の経済政策は支持を集めているとの認識を示し、来年3月の選挙で政権を奪取するためにも、移民政策を含めた問題に取り組む意思を表明しています。

＜ノルウェースタイル、世界初の海中圧搾システムを導入＞

ノルウェーエネルギー大手のスタイルは2015年以降、エイカー・ソリューション社（ノルウェー）から導入する、世界初の海中圧搾システムをアスガルド原油・ガス田で稼働させる予定です。工事は既に昨年7月から開始されており、2015年第1四半期中の完工が見込まれています。この技術の導入により、設備投資やランニングコストの圧縮が期待されることに加え、埋蔵原油・ガスの効率的な採掘が可能になることが期待されています。アスガルド油田のケースでは、2億8,200万バレルに及ぶ採掘量の上積みが見込まれ、約20年もの採掘可能年数の延長につながると試算されています。

出所：各種資料をもとに当社作成

* 上記は文中に登場する企業等に関連する特定の有価証券等の取得勧誘を行うものではありません。

【本資料に関するご留意事項】

本資料は、BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社（当社）が、北欧の資本市場と政治、経済等に関する情報を提供することを目的として作成したものです。本資料における統計等は、当社が信頼できるとされる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料中の数値、図表、見解や予測などは本資料作成時点でのものであり、予告なく変更する場合があります。

☆ノルウェー中央銀行、市場の意表を突く利下げ

＜更なる追加利下げも示唆される＞

2014年12月11日、ノルウェー中央銀行は市場の意表を突く政策金利の利下げ(1.50%→1.25%)を敢行しました。原油価格下落の影響からノルウェー・クローネが主要通貨に対して、不安定な動きをしていることやノルウェー経済の見通しが弱くなっていること等を受けた措置で、2009年10月以来の史上最低の水準となります。

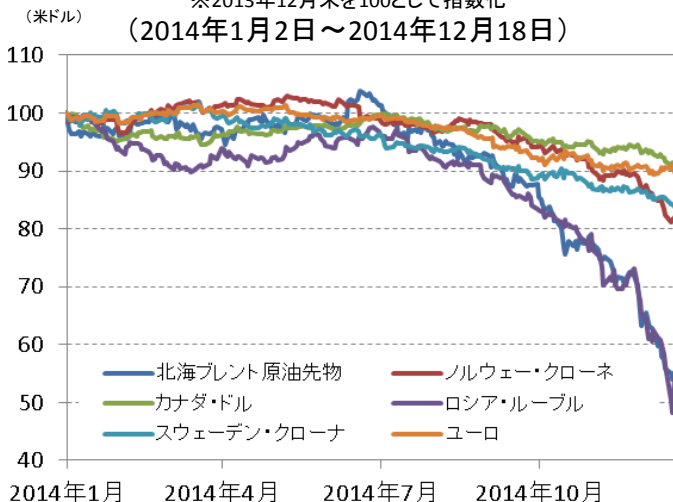
政策金利の引き下げ後も、主要通貨に対するノルウェー・クローネの軟調な展開は続いています。ノルウェー中央銀行のオルセン総裁は、輸出依存度が日本の倍以上の30%を超える水準にあるノルウェーが自国通貨の下落により享受するメリットについて、再三言及しており、2015年中の追加利下げも示唆しています。

エネルギー関連企業の人員削減や投資削減によるノルウェー経済への悪影響が特に深刻であるとして、ノルウェー中央銀行および統計局は同国の経済成長見通しを下方修正していますが、利下げの目的は直接的な景気刺激ではありません。デフレ回避に取り組む欧州中央銀行(ECB)やスウェーデン国立銀行を尻目に、ノルウェーのインフレ率は当面、インフレターゲットの2.5%前後で推移する見通しで、賃金成長も年率3%程度を見込んでいます。

ノルウェー中銀は「ノルウェー・クローネの下落が、原油価格の下落によるノルウェー経済への悪影響を和らげ、健全なインフレ率を実現する。」と、利下げによる効果の見通しを明らかにしています。

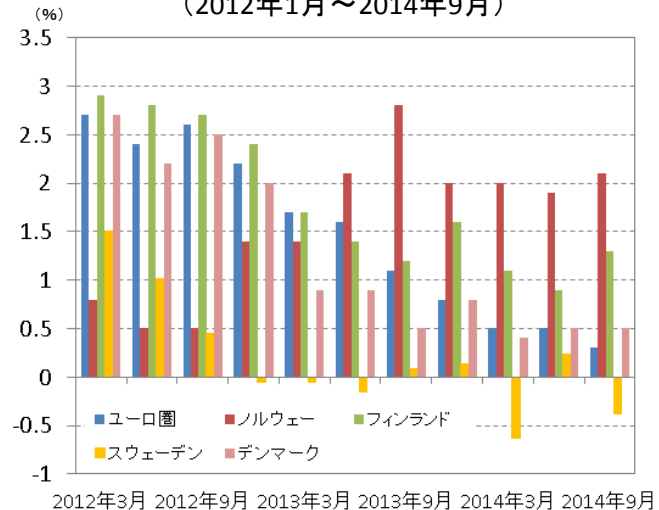
北海ブレント原油先物価格、資源国通貨および
欧州通貨対米ドルレート推移
※2013年12月末を100として指数化

(2014年1月2日～2014年12月18日)



出所:ブルームバーグデータをもとに当社作成

ユーロ圏および北欧4か国インフレ率推移
(2012年1月～2014年9月)



出所:ブルームバーグデータをもとに当社作成